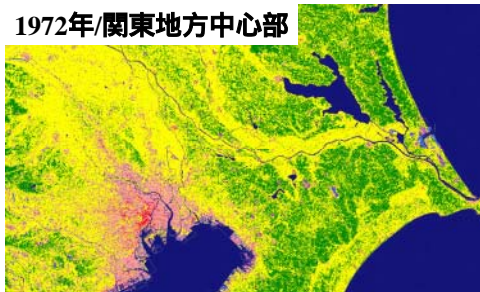


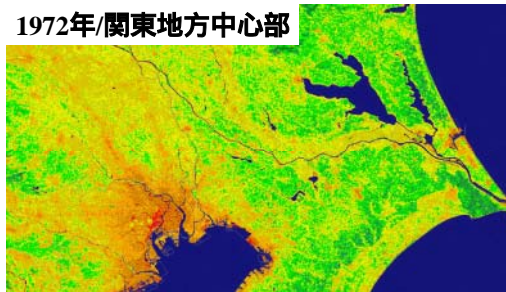
指標: 土地被覆分類図・植生活性度

関東地方中心部において、2000年は1972年に比べ、商業・業務用地や高層・低層住宅地などの面積が拡大している。また、植生活性度は全体的に低下しており、特に都心の西部において顕著である。

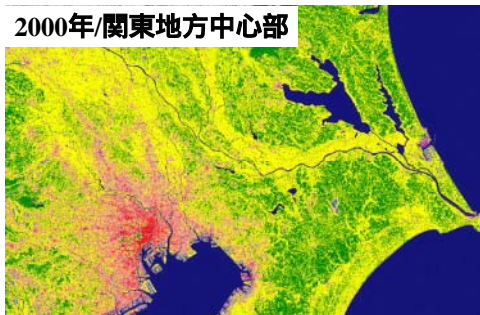
1972年/関東地方中心部



1972年/関東地方中心部



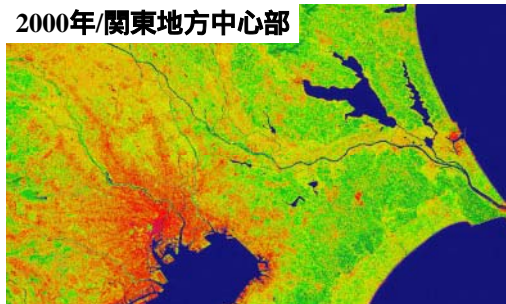
2000年/関東地方中心部



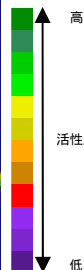
土地利用区分

- 森林
- 田畑・草地
- 工業用地
- 倉庫・空港・港湾
- 商業・業務用地
- 高層住宅地
- 低層住宅地
- 河川・湖沼等
- その他

2000年/関東地方中心部



植生活性度



注) 土地被覆分類図とは、人工衛星に搭載されたセンサによって観測された衛星データを用いて、地表面の土地利用の様子を色分けして表示した画像である。土地利用の判別にあたっては、あらかじめ住宅地や森林といった分類項目毎にデータの特徴(反射特性)を求めておき、これを基準として画像全体の土地利用の様子を統計手法によって自動分類している。

(注) 植生活性度とは、人工衛星に搭載されたセンサによって観測された衛星データを用いて、植物の有無や多少について色分けして表示した画像である。植物の生物・化学的な特性(例えば、植物中のクロロフィルの存在、葉の細胞構造、反射率の高低など)に裏付けされた指標であり、植物の可視域の赤色光域と近赤外域での反射特性をもとに計算している。
1972年と2000年の画像は、比較を可能とするため11月下旬に観測した衛星データを選択している。